沖縄からの平和アピール

　本日6月23日、沖縄は「慰霊の日」を迎えた。

74年前、沖縄に上陸した米軍と日本軍の激しい地上戦が行われた。

地形が変わるほど凄まじく降り注ぐ爆弾と嵐の如く吹き荒ぶ砲撃による沖縄戦は、自然豊かな島々「沖縄」を無残な焦土と変えた。

沖縄戦では、20数万人の尊い命が奪われ、戦闘による民間人の犠牲者数は軍人のそれを大きく上回った。

今日、私たち連合は、沖縄戦で亡くなられたすべての人々に心から哀悼の意を捧げ、戦争がもたらした惨劇と非人間性の実相を強く心に刻み、鎮魂と不戦の誓いを新たにする。

日本に占めている国土面積のわずか0.6％の沖縄県には、米軍基地・施設の約70％が集中していることは、すでに周知されている。米軍基地があるがゆえに、これまで事件・事故が後を絶たず、最も安全でなければならない学校や保育園に部品落下する事故が発生し、住民や子どもたちが危険にさらされている。さらに米軍基地問題に関して、ヘイトスピーチに近いデマや中傷を浴びせるような事態も起こっている。

本年2月に行われた「辺野古米軍基地建設のための埋立ての賛否を問う県民投票」では、投票者の72.15％が埋立て反対という結果となった。政府には、この結果を重く受け止め、沖縄県との丁寧な対話と米軍基地から派生する様々な事件・事故から国民の生命・財産・人権を守り、国民が安心・安定して暮らせるよう「在日米軍基地の整理・縮小」「日米地位協定の抜本的見直し」を改めて強く求める。

「2019平和行動in沖縄」に結集した私たちは、沖縄戦の悲惨さ、米軍基地負担の重さを学び、世界の恒久平和の実現に向けて、今後も粘り強く平和運動を推進することをここに誓い合う。

2019年6月23日

連合2019平和オキナワ集会